

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970101960		
法人名	株式会社うつのみやファミリー		
事業所名	グループホームうつのみやファミリー		
所在地	栃木県 宇都宮市岩曾町441-2 電話:028-689-3021		
自己評価作成日	平成28年 2月18日	評価結果市町村受理日	平成28年 4月22日

※事業所の基本情報は

基本情報	http://www.kaigokensaku.jp/09/
------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成28年 3月25日	評価確定(合意)日	平成28年 4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気を大切に入居者個人に合わせた生活を送っていただいています。 また、入居以前の生活や趣味・趣向、生活歴を大切に、地域との繋がりを持った生活をしていただいております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成14年開設の2ユニットの事業所です。昨年10月に福祉事業を統合して新たな株式会社に変更され管理者も退職、管理者の相次ぐ交代があったが徐々に軌道に乗った支援に取り組んでいます。新たに作成された10項目からなる倫理綱領をより具現化した指針を職員と共に作成の予定である。地区運動会など地域の行事や近隣の学校の行事に参加したり、多くのボランティアを受け入れたり、四季折々に時には自作の弁当を持参して出かけるなど外出支援も重視し自由な生活を楽しめるよう支援をしている。食事も食材の購入、調理の他、後片付けまで自己の力を発揮できる好みの分野を担当し、作る、味わう二重の喜びが得られるような支援にも取り組んでいる。運営推進会議に利用者、家族代表も参加し委員から事業所の菜園で指導を受けたりしている。今回初めて終末期ケア・看取りも体験するなど本人、家族の要望にも職員が一丸となって取り組んでいる事業所です。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) (1階) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との連携、管理者・職員間の理念の共有、また家族との理念の共有を通して実践につなげている。	昨年10月に福祉事業を統合して新たな株式会社に変更になった折、新たに10項目からなる倫理綱領を作成したが、管理者の退職、相次ぐ交替等などで、まだ職員と十分な話し合う機会は持っていない。早急に職員と話し合い利用者本位のケアを目指し、倫理綱領をより具現化した指針を作成していく予定である。	早急に職員との話し合いを持ち、会社から出されている倫理綱領をより具現化した指針の作成に期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一般家庭と同様にご近所付き合いを大切に、常に交流があるよう心掛けている。	周辺の散歩や食材などを購入の店で言葉を交わしたり、地区運動会など地域の行事や小学校の運動会、高校の文化祭に参加し利用者は楽しんでいる。更に多くのボランティアの受け入れも行っている。近隣の家庭には事業所の行事などを伝えたり、フルーツ狩りに出かけた折にはお土産を持参し、逆に野菜などの差し入れも受けるなど普通の家として幅広い交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと連携し、認知症ケアに尽力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加して頂いた家族、包括、民生委員の方のご意見を生かし、運営の役立てている。また、広報誌にて会議の内容の報告を家族に行っている。	利用者、家族代表、民生委員、地域包括支援センターが、委員で定期開催している。概況報告時に利用者が参加した行事を思い出させたり、会議に参加していることを意識する機会となるよう、写真を持参している。感染症に対するアドバイスを受けたり、野菜作りの提言を菜園で実践したり双方向の会議となっている。家族には会議内容を広報紙で知らせている。	会議内容の充実を図るためにも議題に応じて知識や情報を有する方々の柔軟な出席の検討を期待します。また、地域の理解と協力を得るためにも自治会長を委員として参加いただくよう根気強く働きかけていくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携、また市町村への担当部署へも運営に関しての相談を行っている。	各種届出で出向いた際には実情報告をしたり、電話でも運営について相談、アドバイスを受けている。地域包括支援センターは運営推進会議の委員としてアドバイスを受けて、利用希望の情報入手や事業所の空き情報等を提供するなど連絡を密にし協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠の開放を含め、身体拘束のないケアを行うことを職員間で意識徹底している。	ホーム会議でも折に触れ話し合う機会を設けている。外出志向の利用者には、見守りや寄り添い一緒に戸外に出て気分転換を図ったりしている。安全のため玄関の施錠をしているが、各階の入り口は開錠し、閉塞感を感じないよう出来るだけ戸外に出て外気浴をするなど気分転換を図るなども心掛けており、玄関も開錠に向けて検討している。	

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に虐待防止の意識を徹底し、研修等の学ぶ機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に学ぶ機会を設け、また個々に学習の意識が高まるよう指導している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	あらゆることに十分な説明を行い、不安や疑問点の問い合わせがし易いようご家族へ申し送っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情報告書の作成、相談箱の設置等ご家族の意見が運営に反映されやすいよう努めている。	利用者、家族代表が運営推進会議の委員として参加し発言の機会を設けている。家族との電話や、来訪時には気軽に話しやすい雰囲気作りに努めている。以前に家族から要望があった個人の金銭出納状況は明確にした出納票を毎月通知している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報告・連絡を徹底し、職員個々の意見等が反映しやすいよう会議等で積極的に意見を取り入れている。	朝の打ち合わせ時やホーム会議でも意見を出せるような機会を設けており、職員が何時でも気軽に話せるような雰囲気作りにも心掛けている。管理者は職員の意向を参考に役割分担を明確にし運営に反映している。シャワートイレにリフォームしたり、脱衣室の椅子の取り替えなど職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	派遣雇用の採用など人材確保、職場環境の改善に取り組んではいるが、依然厳しい状況。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足が非常に大きく積極的な人材育成は行えていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は現状では個人単位でしか行えていないが、交流の機会を作る計画がある。		

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と連携し本人の希望に沿って安心して生活していただけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な聞き取りを行い、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	包括、ケアマネと共に十分に検討し、適切な介護サービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する家族のような関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密にして、介護サービスにつなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の出産やその他の地域、家族の行事に参加できるよう、外出支援を行っている。	家族の協力で家族のお祝い事の行事や、盆、正月などには出来るだけ家族と共に過ごせるよう支援をしている。また利用者の希望により、お墓参りなどにも同行支援をすることもある。慣れ親しんできた地域の行事(初詣、初市、秋祭りなど)にも利用者の希望に沿って外出支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が交流を持てる機会を提供し、人間関係の円滑に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご様子を伺い施設等を訪問している。		

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り希望、意向を把握し、常に本人本位で検討している。	利用者の大半は意思表示が可能なのでやりたいこと、好きなことを通して利用開始前の生活ペースに近づけ、生きがいが持てる支援、本人本位の支援を目指して取り組んでいく考えである。従来は「食事作り」に重点がおかれた傾向にあったが個々人に合わせた、本人を尊重したケアに取り組んでいくよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	持ち込み等は制限せず、馴染みの暮らし、生活環境を維持出来るよう努めている。またサービス利用の経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に情報を共有できる機会を設け、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に利用者本位の計画を立て、十分な情報交換の元介護計画を作成している。	職員は1～2名の利用者を担当しており基本情報をベースに本人や家族からの要望や個別記録を基にアセスメント資料を作成し、サービス担当者会議で利用者本位の現状に即した介護計画を作成している。定期的にモニタリングをしながら1年を基本に見直しをしている。家族には来訪時などの機会に同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入し介護計画の見直しに役立てている。また必要に応じて記録用紙を新たに作成し介護計画に反省させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに合わせてターミナルケア等にも対応、体制の強化を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を大切にし、心身の力を発揮して頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿い、訪問診療、訪問歯科、また、通院支援を行っている。	娘婿が内科医の1名を除いて協力医がかかりつけ医である。月2回訪問診療や24時間体制での対応は本人・家族の安心感に繋がっている。他科受診は家族対応を原則としているが事業所で同行支援をすることもある。所定の受診記録用紙と家族同伴の場合は申し送りノートに記載し全職員が共有している。歯科の協力医も訪問診療で希望者の治療に当たっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療に備えた情報提供の書類を作成し、適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の地域連携室と連絡を密にし、退院支援、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にも対応出来るよう、体制を整え現在ターミナルケアを行っている。	末期の腫瘍で入院の利用者が退院後再び当事業所での生活の希望もあり、今回初めて終末期ケア、看取りを行った。職員も初めてのことで不安もあったが、協力医、訪問看護師の支援を得て連携を密に全職員で取り組み、約1ヶ月後安らかな最期を迎えられた。この体験を生かし、終末期ケアに向けての方針や職員の研修などに取り組んで行く意向である。	終末期ケアに向けての体制がまだ整っていないところでの今回の対応は良い体験の機会となり職員の自信にも繋がったと思います。反省を生かしながら指針の作成、各方面との調整、職員の研修などに取り組まれることに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等を行っているが今後も実践力の向上に向けて努力が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に対応出来るよう定期的に災害時の対応を確認している。	避難訓練は年2回実施している。6月には運営推進会議に合わせて実施し委員も見学をしている。2階からの避難を課題としているが、6月の訓練ではエレベーターを使用して避難し反省点としている。10月には消防署の立会い、夜間想定で実施し2階は内部階段を使って避難している。	職員全員が訓練の動きが分かるような訓練計画書を作成すると同時に前回の反省を踏まえた訓練に期待します。また、2階の避難方法についても検討される事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに十分に配慮し、丁寧な言葉掛けを心掛けている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し尊厳の念を持って接するようにしている。特に声掛けについてはゆっくりと、丁寧に話すことを心掛けている。言葉のつかい方が気になる場合はホーム会議に取上げ共通理解に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位の対応を周知している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に合わせたペースで生活していただき、利用者本位でケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容、また訪問にてカラーリング等のサービスも導入し、理容室、美容室へ通う支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の買い出しから利用者と共に、調理、食事、片付けなど楽しみながら行っている。	副菜の種類を多くし、野菜を中心にして素材にこだわり使用するなどを基本に、輪番で職員が1週間毎に嗜好や健康面を考慮し季節感を取り入れたものを作成している。利用者は食材の買い物、調理、後片付けの好みの分野を担当している。男性の利用者も参加して作った食事を、職員と一緒に美味しく会話をしながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や栄養バランス、摂取量を観察し一人ひとりに合わせた支援ができるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態や個々の力に合わせ、訪問歯科と連携し口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を十分に把握し、個々に合わせたケアを行っている。	完全自立者は数名いるが、他は時間や何らかの意思表示や動作などのサインにより誘導支援をしている。夜間はポータブル使用者が各階に数名がいる。自分で起きることが出来る利用者には転倒の危険などを考慮してセンサーを活用した見守りや時間での声掛けなどの支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	連携医師の指導や提供する食べ物を工夫し便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の入浴の希望、回数、時間帯に入浴し入浴の仕方も個々に合わせて支援している。	入浴は利用者の希望に添って対応しているが、原則午後の時間帯に3日に1度の入浴をしている。衣服を脱ぐことが嫌で入浴を拒む利用者も多く様々な方法で根気強く対応し、湯船に入ると“アー気持ちいい”と満足した顔になっている。入浴剤は使用しないが季節感を味わうように菖蒲や柚子を入れ入浴を楽しむようにしている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて休息、睡眠を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の記録に服薬の情報を載せ、服薬支援と情報を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かし役割を持って生活して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援を積極的に行い、出来る限る充実した生活を送って頂けるよう支援している。	食材の買い出しに同行してスーパーへ行くなどの毎日の外出や地域の行事、学校の運動会、文化祭に出かけたり、季節の行事としてりんご・苺狩り、時には利用者の手作り弁当を持参した花見や紅葉狩りなど四季折々の外出の機会を多く持ち自由な生活が楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望に合わせ、ご家族との話し合いの元、所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に合わせて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過度な装飾を廃し、一般家庭の雰囲気と生花を飾ることにこだわり工夫している。	リビングの中央には二つの食卓を兼ねたテーブルが置かれ利用者は一日の大半の時間をここで過ごしている。季節に合わせて大・小達磨が飾られたり、雛壇の飾りつけをしたりし季節感を取り入れている。今回は鮮やかな水仙の花が飾られ春の訪れを感じられた。窓際の眺めの良い一角には、ソファが置かれ新聞や本を読んだり一人になれる場所がある。また、駐車場の一部のスペースにはベンチが置かれ外気浴や行事なども行えるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが居心地の良い場所になるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と本人の希望に合わせて自由に好みの物等を持ってきていただき、居心地の良い空間となるよう支援している。	自宅で愛用していた馴染みのベットや寝具を使用している。小物入れの整理筆筒を持ち込んだり、ご主人や家族の写真、書や塗り絵などの自作品などの持ち込み品は個人差があるが、職員と一緒にレイアウトを考え居心地よく暮らせるような居室になっている。清掃は1日置きに職員がしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭の雰囲気を大切に個々の力を活かせるよう工夫している。		